

シドニーオリンピックの女子マラソン競技の金メダリストである高橋尚子さんが、自分を支えてくれた3つの言葉について語っている。

- 1 何も咲かない寒い日は下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く。
- 2 疾風に勁草を知るー強い風が吹いた時に本当の強い草が分かる。
- 3 丸い月夜も一夜だけーいいことは長く続かない。常に満足することなく、次の一步を踏み出すこと。

高校時代の陸上部顧問の先生から教わった言葉だという。事あるごとに、この3つの言葉を噛み締めることで、高橋さんの人間としての根は養われたのだろうか。

また、東井義雄氏の言葉には、次のものがある。

- 根を養えば樹は自ら育つ
- 高く伸びようとするには、まずしっかり根を張らねばならない。基礎となる努力をしないと、強い風や雪の重みに負けてたおれてしまう

教育は、子どもたちの心の根を養うものでなくてはならない。東井語録には、次のものがある。

- 本物は続く。続けると本物になる。
- 明日がある、明後日があると考えている間は何にもありはしない。肝心の“今”さえないんだから。
- 自分は自分の主人公。世界でただ一人の自分を創っていく責任者。
- 問題に追いかけるのではなく、問題を追いかけていく。
- 一を粗末にしては二には進めない。三、四、五、六、七、八まで進んでも、まだ。九（苦）を越えなければ、十の喜びはつかめない。
- 意味というものは、こちらから読みとるものだ。ねうちというものは、こちらが発見するものだ。すばらしいもののなかにも意味が読みとれず、ねうちが発見できないなら、瓦礫の中にいるようなものだ。

今は、根を張るときであろう。自然災害や今回の新型コロナウイルスなど、逆風が吹いてきたときには、無理矢理に花を咲かせようとするのではなく、根を深く深く張るべきだろう。そうすればいまずぐは無理でも、来年、再来年に必ず美しい花が咲く。これは順風なときも同じで、目先のことにとらわれず、自分の根を深く張り続けることが大事だということである。これらのことを数多の先人が教えてくれている。

人生の苦しみや悲しみが人間の根を深くするのである。